

コレクションづくりの考え方・実際

中堅職員ステップアップ研修(1)(LIST)
領域2 第3・4回
2011年10月10日(月)9:30 - 16:00
大阪府私学教育文化会館
豊田高広(田原市図書館)

1

自己紹介

豊田高広(とよだたかひろ)

1958年、静岡市生まれ。静岡市役所入所後、94年から図書館に、中央図書館を経て、開設準備にあたった御幸町図書館で06年4月から館長。10年4月より愛知県東南部の田原市図書館長。「公共図書館員のタマシイ塾」実行委員会代表。ビジネス支援図書館推進協議会理事。現在、ランニングとフェイスブックにはまっている。今年いいね!と思った図書館は、指宿市と小布施町。図書館本はアンニヨリ「知の広場」(みずす書房)。

著書(共著)

『図書館はまちの真ん中:静岡市立御幸町図書館の挑戦』(勁草書房)

『市場化の時代を生き抜く図書館』(時事通信社)

本日の日程

- 今日の研修のねらいと進め方(9:30 - 9:50)
 - 模擬選書会議1(9:50 - 10:50)
 - 講義1(11:00 - 12:00)
 - 昼休み(12:00 - 13:00)
 - 各班の発表と講師コメント(13:00 - 13:30)
 - 模擬選書会議2(13:30 - 14:10)
 - 模擬選書会議3(14:15 - 14:55)
 - 講義2(15:00 - 16:00)
- ぜひ、講義終了後に懇親会を!私(豊田)も参加します。
16時は早いので、会場が許せば「おまけ」講義をします。

今日の研修のねらい

- 選書という集団活動を再現し、コレクションづくりに際し大切なことを考えます。
- 班員は今日一日、同じX市立図書館の選書会議メンバーです。
- 「仲良く」お昼も班員で一緒にどうぞ。
- 議論では妥協しないで!「仲良く」は、徹底的議論には信頼が不可欠だから。
- **結論ではなくあなたの気づきが重要です。**

講義の5つの視点

なお、講義では、特に「課題解決支援サービスに対応できる蔵書」を想定しつつ、5つの視点から選書について私見を述べます。

- コミュニティ本位の視点。
- コレクション(蔵書)づくりの視点。
- 「コペルニクス的転回」の視点。
- 「選書する私」の視点。
- 組織の仕事としての視点。

5

模擬選書会議ケース1 利用者をイメージして本を選ぶ。

ワークの流れ(9:50~10:50)

- 自己紹介
- 司会・記録・タイムキーパー決定
- 進行時間割決定(ここまで、10分程度)
進行例:宿題発表と質疑応答(10分) 意見交換とベストリスト選定(25分:理由は明確に!) 気づきを話し合う(10分) 班記録カードに選定理由と気づきを記入し提出(5分:発表前にコピーして全員に配布)
- ベストリストと班記録カードを使い、各班4分以内で選定のポイントと気づきを発表。(13:00~13:30)

模擬選書会議ケース1 利用者をイメージして本を選ぶ。

- 選定は、リストに挙げた図書についてどんな利用が予想されるか、リスト製作者の論拠は妥当か、を重視してください。
- 選書の際、多数決はやらないでください。少数派は一人でも納得するまで抵抗を！
- とはいえ時間は限られています。多数決でなく、司会の責任で結論を出してください。館長になったつもりで！ **では、開始！(へ戻る)**

講義1-1 コミュニティ本位の視点(1) 職員本位を脱する

- 「コミュニティ(地域、学校等)の欲求・要求」と「図書館の使命・戦略」に基づき選書しよう。
- 職員の趣味や規範の一方的な押し付け(職員本位)になっていないか？
- 「顕在的利用者+潜在的利用者 = コミュニティ」を知ることをあきらめていないか？
- コミュニティの課題(ex.フェリー問題)を知り解決に役立つ目的意識を持とう！(課題解決支援「3つのフェイズ」参照)

8

講義1-1 コミュニティ本位の視点(2) 利用者をイメージする

資料を選ぶときは、どんな人がどんな状況でどう利用するのかイメージしよう！

- ポイントは、コミュニティを「**細分化して(セグメント)、絞って(ターゲット)、位置づける(ポジション)**」(コトラ)というマーケティングの基本。
- 新しいサービスは新しいセグメントから！
- 豊かなイメージには図書館内外でいろんな人と接することがだいじ。

9

講義1-1 コミュニティ本位の視点(3) 欲求・要求を検証する

- 貸出傾向等の調査から、特定セグメントの欲求・要求と「**本に出会うリテラシー**」(柴野京子『書棚と平台』弘文堂)について**仮説**を立てる。「今、利用が多い」事実の後追いだけでは「潜在的利用者」が見えない。
- 仮説にもとづく**実践**(展示やPR活動)で、利用者のリテラシーに「**下駄**」を履かせる。
- 分野別貸出点数、レファレンス、リクエスト等の動向から、仮説の有効性を**検証**する。
- 調査 仮説 実践 検証のサイクルを回そう！

講義1-1 コミュニティ本位の視点(4) 東近江市立A図書館の事例

‘02年以降、貸出冊数漸減、一般書に問題。
分類別貸出回転率の調査
工業系資料(530 - 549)は回転率が高く、蔵書数が少ない・古い...なぜ？
(調査) 周辺の製造業従事者の人口比率が高い
(仮説) 製造業従事者は工業系資料を求める
(実践) 重点選書・面展示・テーマ展示。
(検証) 半年で貸出点数を対前年比11%増やす。
(嶋田学「サービス計画再点検」2009、「図書館問題研究会第35回研究会発表要綱」所収)

11

講義1-1 コミュニティ本位の視点(5)

注意！

- 「多様な、対立する意見のある問題については、それぞれの観点に立つ資料を幅広く収集する」(図書館の自由に関する宣言)
- 予算が厳しいからこそ、購入を「投資」と考え、リスクとリターンを予測して戦略を。自館の目標、利用の現状、住民ニーズの予想等を踏まえて！

12

講義1-1 コミュニティ本位の視点(6)

- リスクを皆無にすることは不毛である。最小にすることも疑問である。得るべき成果に比較して冒すべきリスクというものがある。ドラッカー
- 利用者の新しい課題に答えようと思ったら、選書において「はずれ」は避けられないリスク。
- リスクを減らす以上にだいじなのは、リスクを読み込んだマネジメントをすること。「虎穴に入らずんば」の喩えを思い出そう。(ex.「実験」への投資に数パーセントの資源を確保する。1-1(3)を参照。「？」なリクエストも投資のチャンス。)

講義1-2 コレクションづくりの視点(1) 足し算から掛け算の選書へ

選書は蔵書との四則演算である。

- 買い足すだけの「足し算」から、既存資料の付加価値を高める「掛け算」へ。
(例1)レファレンスツールで、他の資料の利用を増やす。(パスファインダー、目録...)
(例2)請求記号順では埋没する資料を1箇所を集め、新しいテーマが「見える」ようにする。(闘病記の別置...)
(例3)量は、さらなる利用やリクエストを誘う。

14

講義1-2 コレクションづくりの視点(2) 引き算から割り算の選書へ

- 「引き算」除架から、積極的に分母を減らして棚の魅力高める「割り算」除架へ。
- ・ある分館の話。
- ・面出し、平台、サインで変化をつけ、新古書店風「百均棚」脱出!
- ・随時の変更が容易なディスプレイやサインで、固定客にも発見と驚きを。
- ・棚はインターフェース、棚づくりは対話。異業種からも学んでセンスを高めよう。
- ・除架・除籍をし(ら)ない選書担当は迷惑である。

15

講義1-2 コレクションづくりの視点(3) 引き算から割り算へ(例)

- ・約12万で半分が開架。1年で1万を開架へ。
- ・明快な指針:「小規模図書館の文学寄りの棚から、専門分野も揃えた、住民を拒まない棚へ」
- ・目に見える新展開「ほすびたな/えちはたな」
- ・空間的にも時間的にも変化をもたせ、知的好奇心を刺激するさまざまな工夫+遊び心。
- ・年間貸出1割増(9門減、2・3・5門増)
滋賀県愛荘町立秦荘図書館にて取材。

16

講義1-2 コレクションづくりの視点(4) 分館蔵書は構成にメリハリを

「背後に豊富な資料をもつ図書館のバックアップがあるならば、中小規模の図書館ではこのコアに的を絞った蔵書構成をする方が効率がよいと思われる。...よく読まれる本を優先的に購入するという効率重視の方法をとれば、少ない予算でも利用の伸びる余地は十分ある。」(伊藤昭治他『本をどう選ぶか』日本図書館研究会)

「よく読まれる」

= 欲求があり、必要がある(仮説、予測)

17

講義1-2 コレクションづくりの視点(5) 「よく読まれる」を知るには?

- 現に貸出の多い分野、著者、版型、装丁、書体等を重視するのが基本。
- 館の目標・戦略と「兆候」にもとづき予測(仮説)を!統計(増減)、リクエスト、出版動向、時事的関心(例:雑誌の特集)、「業界のセオリー」等に注目。
- 資源の一部は仮説の検証(実験)に投入。
- 実験は見え易く、動かし易く、検証し易く。

18

講義1-2 コレクションづくりの視点(6)マクロコスモス/ミクロコスモス

「大宇宙(知の体系)」と「小宇宙(図書館)」の対応関係も意識しよう。

- ・怪しげな情報の氾濫(健康、投資)
- ・知識の更新速度が著しい(法律、健康)
- ・知の体系自体が激しく変化(情報科学)
- ・定説がない、激しく対立(放射能)
- ・学習者の「定番」がある(「深度」と関係)

19 19

講義1-2 コレクションづくりの視点(7)蔵書評価の視点

蔵書の評価には分野毎の「密度・速度・深度」の視点が有効(三村敦美論文『市場化の時代を生き抜く図書館』参照)

- **密度**:利用や要求の大きさはどの位か
- **速度**:資料の「賞味期限」はどの位か
- **深度**:どの位専門的な本が求められるか

20

講義1-2 コレクションづくりの視点(8)医学書・心理学書を例に

例1:医学の本(「みんなの図書館」2008年7月号、吉田倫子論文参照)

- **密度**:要求の大きさに対して、量は十分か。分野間のバランスはどうか(民間療法が肥大しがち)
 - **速度**:求められる資料の鮮度に対して、資料が古すぎないか(耐用年数「5年」説)
 - **深度**:求められる資料のレベルに対して、入門書に偏りすぎていないか(横浜市の三段階選書)
- 例2:心理学の本(田原市図書館作成資料による)

21

講義1-2 コレクションづくりの視点(9)医学書賞味期限の根拠

- 診療ガイドラインは3～4年で改訂されるべき「Minds診療ガイドラインの手引き」より
- 5年以上たった図書は内容が最新であるか調査し、大部分を廃棄するように勧めている。『公共図書館員のための消費者健康情報提供ガイド』日本医学図書館協会:2007 p104
- 医学書テキストブックの改訂頻度がおおむね5年である。

(2011.6.29 岐阜県教育委員会司書等研修会にて、静岡県子ども病院司書 塚田薫代氏による)

講義1-3 「コペルニクス的転回」の視点(1)

- 「メディアの世界」の激変
= 情報の爆発的増大とデジタル化・ウェブ化 & 知的資源の重要性の高まりと情報格差
- 「課題解決支援サービス」の重要性の高まり
蔵書は「役に立つ情報」のごく一部!



- 図書館天動説から、図書館地動説へ!
仲俣暁生他『ブックビジネス2.0』(実業之日本社)、柳与志夫『千代田図書館とは何か』(ポット出版)、アンニョリ『知の広場』(みすず書房)等を参照。

講義1-3 「コペルニクス的転回」の視点(2)

- 図書館地動説:公共図書館は、蔵書ですべてが足りる「総合病院」ではありえない!
公共図書館はネットワークを総動員してかかりつけの「患者」のQOLを高める「情報の町医者」!
- 公的機関としての信用と、敷居の低さを生かし、「最初に使う」情報サービス窓口。
- 専門的な情報探索のために、相互貸借から、相談窓口の紹介まで、専門機関と「つなぐ」役割も。

講義1-3 「コペルニクスの転回」 の視点(3)

- 課題解決のために、ウェブ紹介を含む情報探索のレシピ(パスファインダー)や目録、索引作成や棚づくり等の情報編集を。
- 支援サービス:「主役」の機関を情報面でサポートする、名脇役になる。
- 「読書支援」のノウハウを生かしつつ、住民が「情報リテラシー」を培い、生かす場に!
- 地域活性化を担う情報サービス機関としての行政が果たすべき役割を考えるなら、有川浩『県庁おもてなし課』(角川書店)がお勧め。

模擬選書会議ケース2 3類開架の除架方針をつくる

- X市立図書館の3類(社会科学)開架の本が溢れています。現場から、除籍基準はあっても開架の整理の方針がなく判断に困るという声が出ています。そこで、3類の開架について方針をつくり整理することにしました。どんな点に注意すればいいと思いますか。(特に重要な点を5つ、箇条書きで)

模擬選書会議ケース2(参考) X市立図書館資料除籍基準

- 1)所在不明のまま3年以上経ったもの
- 2)貸出資料のうち3年以上回収不能のもの
- 3)不可抗力の災害・事故で失われたもの
- 4)汚損・破損が著しく、補修が不可能なもの
- 5)内容が古くなり資料的価値がないもの
- 6)利用が低下し今後も利用の見込みがない
- 7)新版・改訂版の出版で代替が必要なもの

模擬選書会議ケース2(参考) NDCの3類

30 社会科学	31 政治	39 国防、軍事
	32 法律	
	33 経済	
	34 財政	
	35 統計	
	36 社会	
	37 教育	
	38 風俗習慣、民俗学、民族学	

模擬選書会議ケース3 選書への市民参加の是非を論じる

- X市立図書館では1年後に分館の開設を予定しており、2万冊の図書を購入しなければなりません。館長から選書会議に、市民選書員の設置を検討するよう指示がありました。賛成組と反対組に分かれて、ディベートを行ってください。

模擬選書会議ケース3(参考) 市民選書員とは?(館長説明)

- 元・松本市立図書館長の手塚英男氏が「松本サリン事件と図書館の自由(3)選書権は、誰にあるか」(配布済)で提案した制度。類似した事業として、選書ツアーがある。選書ツアーについては、安井一徳『図書館は本をどう選ぶか』(勁草書房)等を参照。

模擬選書会議ケース3(参考) ディベートの実施方法

- 班内で、名簿が奇数番号の方は「賛成」、偶数番号の方は「反対」となる。
- 賛成派と反対派、それぞれで作戦会議を行う。分担(立論、反論、まとめ)をどうするか、どんな論点を挙げるか等。(20分)
- 実際にディベートする。(12分)
- 気づいた点を述べ合う。(5分)

模擬選書会議ケース3(参考) ディベートの実施方法

- テーマ「市民選書員を設置するべきだ」
- 賛成側立論(2分)
- 反対側反論(2分)
- 反対側立論(2分)
- 賛成側反論(2分)
- 賛成側まとめ(2分)
- 反対側まとめ(2分)

講義2-1 「選書する私」の視点 (1)

- 「選書する私」はどんな私か、ときどき意識しよう。
- 「選書する私」の中の検閲官、文学趣味、理科嫌いetc.がどこまで分かっているか。(カウンセラーは「自己一致」が大切という。)
 - 何を学ぶか、誰の力を借りるかも、「選書する自分」が分かってこそ。
 - 「選書する自分」を育てるには...最後で。

33

講義2-1 「選書する私」の視点 (2) 選書力とは？

- 選書力とは、図書館の目的に適ったコレクションをつくる能力のこと。
- 「本」や「知」の世界の見取り図がある。
 - 蔵書のポリシーやクセが感覚的に分かる。(あのテーマはあのあたり...)
 - コミュニティの要求や動向に関する仮説がある。

34

講義2-1 「選書する私」の視点(3) 選書力を磨くには？(仕事編)

- 迷う資料・気になる資料は、タイトルの意味、関連書の利用動向等を調べ、利用者をイメージ。
- ボーダー感覚を磨く！ボーダーライン上の本について調べ(できれば)読み、触れる。
- 棚(特に新刊、特集)や利用者を観察する。
- 会議等で同僚と資料について議論する。
- 選書ツールは隅から隅まで目を通す。

35

4 「選書する私」の視点(4) 選書力を磨くには？(生活編)

- 関心のある複数のテーマについて観測。
- 書店に通い、好き嫌いなく隅々まで観察。
- 本についての「本」を読む。(書評、出版業界本、PR誌、広告、ウェブ書店、ブログ、メールマガジン、SNS...)
- 担当分野のキーワード、キーブック、キーパーソンを「不易と流行」の両面から押えよう。(今泉正光『「今泉棚」とリブロの時代』論創社)
- 公共図書館員だったら、著述家1000、出版社100、テーマ10(資格・検定等を利用)を5年くらいで...要は好奇心！

36

講義2-1 「選書する私」の視点 (5)選書力養成おすすめ本

- 明定義人『本の世界の見せ方』、『楽しい貸出に向けて』(六夢堂) 入手困難。明定論文所収雑誌等参照。
- 井上真琴『図書館に訊け!』(ちくま新書)
- 伊藤昭治他『本をどう選ぶか:公立図書館の蔵書構成』(日本図書館研究会)
- 赤木かん子『読書力アップ! 学校図書館のつくり方』(光村図書)、『子どもに本を買ってあげる前に読む本』(ポプラ社)
- 安井一徳『図書館は本をどう選ぶか』(勁草書房)

37

講義2-1 組織の仕事としての視点(1)

選書は日々の図書館経営の中核。ドラッカー流に考えれば、図書館経営の基本は、

使命 目標 戦略 マーケティング(顧客の創造)
イノベーション(新しい価値創造)
資源管理(資料、人、資金、施設等)

日々の図書館経営においては、もも、とりわけ選書(攻めの選書)を通じて実現されるのである。資源管理(守りの選書)は、戦略(攻めの選書)に従属する。管理職でなくても役立つ図書館経営入門には『もしドラ』(ダイヤモンド社)、図書館も例に挙がっているドラッカー『非営利組織の経営』(同)がお薦め。教科書を1冊挙げるなら、柳与志夫『図書館経営論』学文社。

38

講義2-2 組織の仕事としての視点(2)

選書は組織による継続的な活動だ。

- 選書的前提 = 図書館の使命は職員全体で共有されているか。
- 選書について話し合う場はあるか。
- 経験から得た知恵は引き継がれているか。

39

講義2-2 組織の仕事としての視点(3)

- これからの選書は、ますます利害関係者への説明責任と遵法(コンプライアンス)を求められる。
- あなたの図書館の使命と一致していれば、収集・提供してはいけない資料はない。
- 法的根拠のない「内輪の論理」による規制はそれ自体、法的責任を問われることも。(船橋市の例...詳しくは「図書館の自由」講義にて。)

40

講義2-2 組織の仕事としての視点(4)

- あなたの図書館の使命にもとづいて購入した資料を「見せるな」「捨てる」と言われたときの組織的対応 = 危機管理を日頃から考えるべき。
- 組織レベルでもボーダー感覚を磨こう。(例:「事件」が起これば早めに会議や研修で取り上げ、上司やパートさんにも周知。例:岡崎市の件はどのくらい周知されたか?)
- 『図書館の自由に関する事例集』(日本図書館協会、2008)を参考に。

41

講義の5つの視点

5つの視点は、あなたの選書を見直すきっかけとなったでしょうか。

- コミュニティ本位の視点。
- コレクション(蔵書)づくりの視点。
- 「コペルニクス的転回」の視点。
- 「選書する私」の視点。
- 組織の仕事としての視点。

42

気づきシートを書いてください。

- あなたの気づきを指定日までに「気づきシート」に記入して提出してください。
- みなさんに講師のコメントをつけたシートをお返します。

最後にPR
を。

「公共図書館員のタマシイ塾」

- 2010年秋～2011年春 第2期終了
(公式サイト)<http://t-juku.org/>
私の図書館を変えたい！でも孤立している。
私の図書館を変えたい！でもどこから手をつけたら...

じゃあ、第3期に応募しよう。

異業種の達人、課題解決支援のパイオニアの熱いタマシイに感染したとき変化が始まる。

間もなく、詳細をウェブサイトで発表！

まずは11/9夜、「タマシイ塾」公開講座@ヨコハマをご予定に。11/9-11/11図書館総合展「タマシイ塾」ブースもよろしく。

終わり

ご協力ありがとうございました。
この場で解決できなかった疑問に関するお問い合わせは、田原市中央図書館 豊田高広宛にメールでどうぞ。